

一般質問

自治体トップは
「経営哲学」を持って

松本展国 議員

市長の政治姿勢について

質問 合併前に描いた構想と現実の市政執行にあたって、大きな誤算はなかったか。

市長 ほぼ、想定範囲内と考えている。議会からの建設的な意見もあり、新市建設計画の見直しに素早く対応できたことに感謝している。今年も一般会計で500億円近い予算を組むことができたが、これに満足することなく、今後、一層気を引き締めて市政執行にあたっていくつもりだ。

質問 市長には、佐渡市のトップとしての「経営

哲学」はあるのか。

市長 市民の感覚、判断を速やかに吸い上げるといふ情報公開の重要性を職員に説き、その中で職員の意識改革を図っていくつもりだ。

自治体改革について

質問 働ける人が減り、税を負担する人が少なくなる「高齢少子社会」に対応すべく、市の行財政需要を抑制するために、どのような施策を考えているのか。

市長 確かに税収が乏しく、限られた予算の中ではあるが、職員の適性配置、勧奨退職等によって、行

財政の効率化を進めていくつもりだ。

質問 政策をどう実施するのかという「行う機能」は磨かれていても、政策をどう創り出していくのかという「考える機能」は極めて弱いと考える。今回の合併を契機に、この部分をどのように強化していくのか。

市長 組織の専門性というところが極めて重要であり、職員の採用段階から、専門家の卵を採るように努力したい。

また、研修はもちろん、各担当の責任者を「長」として仕事の中での訓練が大事と考えている。

質問 市民に「開かれた

自治体」を実現するために、市としてどのような施策を考えているのか。

市長 市民が「主人公」という視点にたつて、政策決定の過程を市の広報、ホームページ、メールマガジン、ケーブルTV等によって、今まで以上に公開していきたい。

今回行ったタウンミーティングも、その一つだ。

タウンミーティングについて

質問 タウンミーティングを行なった背景には、

周辺地域や過疎地に暮らす市民に、「政治の光」を当てなければならぬという思いが、市長にあったと理解してよいか。

市長 もちろん、その意図も十分にあったと考えたいだいて結構だ。

質問 市民から出た意見、あるいは要望は今後の市政に反映されていくのか。

市長 多くの貴重な提言があり、冊子にまとめる予定にしている。また、すぐに取りかかれるものについては、直ちに対応するよう職員に命じてある。

